

恵みと真理のニュース



2013 年 12 月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】 限りない愛と能力で私達の家庭で祝福を与えてくださり 年老いて息子を与えてくださった神様を捧げます

私は小学に入る前から視覚障害があるおばを連れて教会へ通いました。田舎だから農業の仕事が多くて当時には昼から夜まで親を手伝わなければなりませんでした。特に蚕をたくさん飼ったので夜ことに桑の葉を取るの私の日課でした。そのように親を手伝うことをしなければならなかったですが主日には親の密かにおばと村の友達を連れて二つ山を越えて遠い道を行き来しながら教会を通いました。もし教会へ行けない時には道にカマスを敷いて油で火をつけておばの導きで友達と共に礼拝を捧げました。私が教会に通うことを強く反対する親は私が教会に行く日は扉を閉めて夜ご飯もくれなかったです。神様に対する私の信仰と愛が変わらないと思いましたがもどかしく、中学生になり高校生にながら信仰が冷めていきました。高校を卒業してからソウルの明洞にあるホテルでマッサージの仕事をするお婆の世話をしながら生活をしてからは主日の礼拝も休んで友達と遊んで世の楽しみで楽しかったです。ところが、主日に教会に行かなくて世の楽しみに落ちた日は必ず右の胸が痛くて息をすることができませんでした。私がとても痛がると叔母は“あなた、昨日教会には行ってきたの？聞きました。その時には叱られないように“はい”と嘘をついたりしました。ところが主日を守って叔母と一緒に教会に行ってきたら珍しく痛みが全くなくなりました。神様は変わらず私を愛し私の手をつかんでいることを確信して、叔母の勧誘で悔い改める祈りをして感謝し以前の信仰を回復しました。親は 8 人の兄弟の中で三番目の娘でソウルで暮らしている私に大きい期待をしていました。それで私が結婚の時期になって世の条件が良い男と出会う結婚する事を願いました。ある日は小学校の教師で勤めている男を私の旦那をしようと目をつけた人とお見合いをなさいと勧めましたが、相手が不信者でさらに長男

で祭祀をしなければならいと言ったので私は一言で断りました。その後結婚のため切に祈りました。結婚が遅くなって周りから心配しましたが私は“必ず神様を信じる青年、十一献金の生活をする青年、礼拝生活に妨げない信仰の家庭の青年に出会って信仰と愛で家庭を作る事を願いながら一週間断食祈りをしました。祈り終わってすぐお見舞いをしましたが、神様は私の祈りに答えてくださって神様をよく信じる家庭の男でした。それで世のどんな条件も見なくてその人と付き合って二ヶ月経たないうちに結婚することをみなに知らせました。私の確固たる心だったので親も結局認めてくれました。新婚生活をして初めてもらった旦那の給料を姑に差上げその中で十一献金は私を通して神様に捧げるように助けてくれた旦那にありがたかったし、神様にも真に感謝しました。祈りしたとおりに旦那と熱心に教会に通い神様を捧げるようになって幸せな日々が続きます。そうするうちに私は区域長になりもっと熱心に神様の御言葉に従順して任されていることにもっと忠誠をしようと頑張りました。さて、歳月が経て韓国には IMF の経済台風が来て旦那の会社も苦難にぶつかってついに法廷管理に入るようになりました。旦那が通った会社が当時大きくて有名な製パン会社だったが突然デェグとチョンジュにあった工場をたたくで職員三千人を減らしてシハ工場に移す状況でした。私は神様を願い望みながら切に祈りました。当時には祈りしか私と旦那がやる事はなかったです。神様は私たちを哀れんでくださり全ての面で誠実な旦那を導いてくださいました。様々な悪い条件の中でも会社で続けて勤務するように導いてくださったのです。この後会社がまた安定して韓国で一番大きい製パン会社として発展され旦那は会社で必ず必要な人として認定をもらい今日も会社で頑張って仕事をしています。今まで旦那の給料だけでも生活するように神様が浪費を防がれ私に知恵を与えてくださり、規模あつて生計をよく立つことで姑を仕え大学生の子供を育つながら家族みなで平安に暮らすことができました。恵まれた生計で

はなかったですが神様に体と物質を捧げ献身することに熱心に働いた時には神様からたくさんの祝福を与えられ 借家生活を終え私達の家も買えましたが続いてもっと大きい家をどんな問題なく買えるように導いてくださって限りない喜びと感謝で家庭礼拝と区域礼拝を捧げるようになりました。何よりも驚いて感謝することは神様は私が 43 歳のときに息子を与えてくださったことです。初めて妊娠の話聞いて、感謝しながら“できれば息子を与えてください。今私には大学生の娘がいるんじゃないですか。そして神様に尊く用いられる子供になるように神様が導いて育ててください。私の夫婦は年を取っているから”祈りました。家族みなが感謝しながら祈ったら高齢出産にも関わらずどんな検査も受けなくて手術しなくて自然出産で健康で格好良い息子を得ました。ハレルヤ！この息子が今 10 歳小学校 3 年生になりました。学校でリーダーをして教会では聖歌隊で熱心に神様を賛美しますがその姿がとても奇特です。末子を産んでから腰ヘルニアで何日間病院で入院しているうちに送旧迎新礼拝に参席して当会長牧師の神癒の祈りのときに腰ヘルニアと今までにおいをかけないほど酷かった鼻炎とアレルギーもきれいに治癒される恵みを受けました。それだけでなく姑との関係も良くなり姑と旦那の助けで私が担えているマンナ室の事と首区域長の任務を問題なく担えるようになりました。すべてが神様の恵みです。“主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い…命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであらう。”(詩篇 23：1～6)ハレルヤ！相変わらず愛と大きい能力で共にいらっしやって私達の家族を見守ってくださる神様に感謝を捧げます。



【信仰コラム】 必要(ひつよう)な質問(しつもん)と必要(ひつよう)ない質問(しつもん)

“…神は言われた、「あなたの子、あなたの愛するひとりにイサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を 〇 祭としてささげなさい」 アブラハムは朝はやく起きて、…”(創世記 22:1-4)

様々(さまざま)な事物(じぶつ)について健全(けんぜん)な欲求(よつきゅう)から始(はじ)まった質問(しつもん)を持(も)つことはいいことです。しかし、人格(じんかく)的(てき)な関係(かんけい)では違(ちが)います。どんな人(ひと)を深(ふか)く知(し)って完全(かんぜん)に信頼(しんらい)できるようになれば、その人(ひと)の行動(こうどう)や要求(ようきゅう)に対(たい)してこれ以上(いじょう)質問(しつもん)する必要(ひつよう)がなくなるようになることができます。神(かみ)様(さま)に対(たい)する質問(しつもん)に関連(かんれん)して私(わたし)たちは相(あい)反(はん)する二(ふた)つの態度(たいど)を持(も)つ必要(ひつよう)があります。第(だい)一(いち)は、神(かみ)についてもっと知(し)るための質問(しつもん)をしなければなりません。ホセアの預言(よげん)者(しゃ)はイスラエル国(こく)が指導(しどう)者(しゃ)たちの腐敗(ふはい)と民(みん)の偶像(ぐうざう)崇拜(すうはい)によって神(かみ)様(さま)の懲罰(ちやうばつ)を受(う)けて破滅(はめつ)するようになることを警告(けいこく)し、悔悟(かいご)を促(うなが)しました。“私(わたし)の民(みん)が知識(ちしき)がないので滅(ほろ)びる”と嘆息(たんそく)しており、“ですで、私(わたし)たちがキリストを知(し)ろう努(つと)めてキリストを知(し)ろう”と叫(さけ)びました。、パウロはユダヤ人(じん)として幼(おさな)い時(とき)から聖書(せいしよ)を知(し)り、聖書(せいしよ)に精通(せいつう)した教(きょう)が、聖書(せいしよ)に予言(よげん)されたメシアーと救(すく)いの真理(しんり)について正(ただ)しく理解(りかい)できませんでした。それで、イエス様(さま)を信(しん)じて福音(ふくいん)を伝(つた)えするキリスト教(きりすと)徒(と)たちを憎悪(ぞうお)しました。神(かみ)様(さま)に対(たい)する知識(ちしき)は底(そこ)が計(はか)りきれない。神(かみ)様(さま)を知(し)っている知識(ちしき)を持(も)つようになると、人生(じんせい)観(かん)が違(ちが)ってきます。宇宙(うちゅう)館(かん)、歴史(れきし)館(かん)、生(なま)史観(しかん)

(しかん)、価値(かち)観(かん)が変化(へんか)されます。人(ひと)が持(も)つ質問(しつもん)の中(なか)で最(もっと)も貴重(きちゆう)な質問(しつもん)は、パウロがダメセク途上(とじょう)で地面(じめん)に四(よ)つん這(ば)いになって聞(き)いた“主(しゅ)は誰(だれ)ですか?”という質問(しつもん)です。この質問(しつもん)に対(たい)する答(こた)えを得(え)て一生(いっしょう)の間(あいだ)“神(かみ)様(さま)、私(わたくし)が何(なに)をしなければなりませんか?”という質問(しつもん)をしながら生(い)きなければなりません。その答(こた)えを得(え)るために聖書(せいしよ)をいつも黙想(もくそう)して上告(じょうこく)しなければなりません。第(だい)二(に)は、神(かみ)様(さま)が行(おこな)うことについて質問(しつもん)する必要(ひつよう)がない必要(ひつよう)があります。モーセは神(かみ)様(さま)のお仕事(しごと)について‘どうして’という用語(ようご)を使用(しよう)したことがあります。彼(かれ)が神(かみ)様(さま)からの呼(よ)び出(だ)しを受(う)けてシナイ山(やま)の上(うへ)に上(あ)がってきたのに、数(すう)つ日(じつ)が過(え)ぎても降(お)りないと、イスラエルの民(みん)がアロンに要求(ようきゅう)して金(かね)で子牛(こうし)の形(かたち)を作(つく)ってその前(まえ)ではんさいと和睦(わぼく)剤(ざい)を食(た)べて飲(の)んで遊(あそ)びまわりました。神(かみ)様(さま)がモーセに“私(わたし)が彼(かれ)らは激怒(げきど)して彼(かれ)らをじんめつして、君(きみ)に大(おお)きな民族(みんぞく)に作(つく)りたい。”しました。そうすると彼(かれ)は神(かみ)様(さま)に“キリストよ、どうしてその大(おお)きな権能(けんぬ)のう”と強(つよい)手(て)でエジプトの地(ち)で誘導(ゆうどう)してくださった主(みん)に激怒(げきど)しましたか。どうして…”(出エジプト記 32:11-13)し、神(かみ)様(さま)の名前(なまえ)、神(かみ)様(さま)の栄光(えいこう)を考(かんが)えてイスラエルの民(みん)に災(わざ)いを降(お)りないでほしいと求(もと)めました。彼(かれ)が神(かみ)様(さま)の口(くち)約束(やくそく)に基(もと)づいて求(もと)めたのは私(わたし)たちが見習(みなり)う点(てん)です。しかし、彼(かれ)が使用(しよう)した‘どうして’という言葉(ことば)は適切(てきせつ)ではないです。神(かみ)様(さま)がいたずらに激怒(げきど)しているのではなく、激怒(げきど)している理由(りゆう)は明(あき)らかします。

神(かみ)様(さま)が加増(かぞう)するように思(おも)われる偶像(ぐうざう)崇拜(すうはい)をしたこの民(みん)に激怒(げきど)してじんめつをしようとすることは当然(とうぜん)のことです。しかし、神(かみ)様(さま)がモーセの真(しん)の心(こころ)を知(し)ったからに‘どうして’という言葉(ことば)は看過(かんか)してモーセの祈(いの)りを聞(き)いてらし意味(いみ)を改(あらた)めました。アブラハムの卓越(たくえつ)した点(てん)は、神(かみ)様(さま)の指示(しじ)について“なぜ”とは問(と)われない態度(たいど)です。独自(どくじ)の穂(ほ)をはなさいにという青天(せいてん)の霹靂(へきれき)のような神(かみ)様(さま)の言葉(ことば)だったが、アブラハムは無(む)条件(じょうけん)に神(かみ)様(さま)の指示(しじ)に随順(ずいじゅん)しました。神(かみ)様(さま)を深(ふか)く知(し)って完全(かんぜん)に信頼(しんらい)できるようになれば、神(かみ)様(さま)の行(おこな)うことや要求(ようきゅう)に対(たい)して質問(しつもん)する必要(ひつよう)がないことになります。神(かみ)様(さま)についてこのような境地(きょうち)に達(たっ)しなければなりません。皆(みんな)さんは、神(かみ)様(さま)の品性(ひんせい)と口(くち)約束(やくそく)と意思(いし)をよりたくさん知(し)るを訴願(そがん)して聖霊(せいれい)に質問(しつもん)して教(おし)えてくれることを求(もと)めてください。それで、その広(ひろ)さと長(なが)さと高(たか)さと深(ふか)さがどのようなことを悟(さと)って神(かみ)様(さま)のすべての充満(じゅうまん)し中心(ちゅうしん)で充満(じゅうまん)することを願(ねが)います。そして一面(いちめん)は神(かみ)様(さま)を深(ふか)く知(し)って神(かみ)様(さま)を完全(かんぜん)に信頼(しんらい)することで神(かみ)様(さま)のお仕事(しごと)と命令(めいれい)について、どのような質問(しつもん)も要(よう)することなく、願(ねが)いと喜(よろこ)びに従順(じゅうじゅん)な生活(せいかつ)をしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

感謝の根源



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

根源と言うのはどんな仕事ができる土台になるのです。クリスチャンには感謝の根源たちがたくさんあります。クリスチャンの特徴の中で除くことができないことが感謝する生き方です。感謝が不毛なクリスチャンという言葉は事実上成立にならない言葉です。今日は感謝の根源たちにに関してよく見ます。

第一は、神様を信頼する心が感謝の根源です。

あの昔のエジプトを去ってガナアンに行進したイスラエル子孫たちは神様とモセに向けてうらみと不平をしました。それによって神様の懲罰を受けてガナアンに入ることができなくなりました。エジプトから出る時 20 歳以上になった人々はヨシュアとガルレブを除き皆広野で死にました。彼らがエジプトを出発した後 2 年になっていよいよガナアン進入を目前に残すようになりました。ところでその所で彼らがガナアン地を探って帰って来た 12 人の中に 10 人のさぐり報告を聞いて大きく気落ちして神様とモセに向けてうらみました。これによって神様の震怒を受けるようになって彼らは広野に帰るようになりました。それから 38 年間も広野で迷う歳月を過ごしながに死にました。今日の本文にこんなに記録されました。“また、ある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、「死の使」に滅ぼされた これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。”（コリント人への第一の手紙 10:10, 11）。もし彼らがすべての事に神様を向けて感謝したらエジプトを去ってから 2 年余りぶりに皆ガナアン地に入るようになったはずですが、彼らがそのように神様を向けて不平を言った理由が何ですか？表面積な理由はさまざまです。エジプト軍隊の追い撃ちを受けたからです。喉が乾いたからです。食べる食物が足りないからです。彼らが入って行くガナアン地には堅固な城邑と強い原住民たちがいたからです。しかし私たちが出エジプト記を読んで見ればそういう問題はイスラエル子孫たちが恨んで不平を言う理由になることができなかったです。何故ならば彼らが当面した問題を神様が皆解決してくださったからです。彼らの前にふさいでいる紅海の中に道を作って彼らを無事に渡るようにしたし彼らを追撃するエジプト軍隊を紅海の中に水葬させました。民が水を捜すことができなくて喉の渇きに苦しんでいる途中水を見つけたがにがいで飲むことができなかったです。ところでモセが神様の指示した木を水に投げると飲むことができるようになりました。エジプトで持って出た食物が底が見えて飢え死にするようになると神様が天マンナを下げてくださって日用する糧食に不足さがないようにしました。

一日二日ではなく 40 年広野生活で毎日マンナを食べるようにしました。こんな事実を考えて見る時イスラエル子孫たちが恨んで不平を言った事に対しては弁解の余地がないです。彼らが恨みと不平を言うようになった理由で立てることは表面積な理由に過ぎないです。根本原因は一つに集約して言えます。それは彼らが神様を信頼することができなかったのが原因です。

神様を向けた感謝は神様に対して信頼の深みに比例します。使徒パウロはこんな事に私たちに良いお手本になります。彼の感謝は神様を信頼する心で満ち溢れました。パウロ使徒はビルリブボ監獄に投獄されても夜中に讃尿を呼びました。ローマの獄中でもビルリブボ教人たちに送る手紙で

“何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。”（ピリピ人への手紙 4:6）しました。“神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”（ローマ人への手紙 8:28）しました。このような確信は神様を向けた全幅的な信頼から始まります。聖徒の皆さんは神様を向けた信頼の根源で湧き出る感謝をあふれるように願います。

二番目は、神様を愛する心が感謝の根源です。

旧約聖書詩編の中では神様を向けたダビデの感謝と讃揚の詩がたくさん記録されています。ところでダビデの生涯をよく見れば実に波乱万丈します。ゴリアテを前に立たせたブルセツ軍隊と対置したサウロ王の軍隊は負け色が濃かったです。こんな地境でダビデが神様を頼ってからゴリアテを死んだので国を求めました。しかしサウロはダビデを嫉んで殺そうと思いました。何回や死の危機を免れたダビデは結局逃亡者になりました。サウロは軍隊を導いてダビデを追跡しました。ダビデは危機の状況を辛うじて脱したりしました。ダビデは王になった後にも子供たち問題でおびたしい試練を経験するようになりました。はなはだしくは息子アブサルロムの反逆によって王宮を捨てて慌てて身を避けたこともありました。ところで一つ驚くべきなことはそんな渦中でもダビデのくちびるには感謝と讃尿があふれたという事実です。その事実が詩編に記録されています。わたしは心をつくして主に感謝し、あなたのくすしきみわざをことごとく宣べ伝えます。”（詩編 9:1）したし、“わがたましいよ、主をほめよ。わがうちなるすべてのものよ、その聖なるみ名をほめよ。わがたましいよ、主をほめよ。そのすべてのめぐみを心にとめよ。”（詩編 103:1, 2）しました。ダビデの感謝と讃揚は神様を愛する心から湧き出たのです。

イエス様がナザロの家を訪問して食事する時にナザロの妹マリアが非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼを持ってきてその石膏を破ってイエス様の頭に注ぎました。ガリオテユダヤ含めて弟子たちが異口同声で“何の意思にこの香油をむだ使いしたのかこの香油を三白デナリオン以上に売って貧しい者等に与えることができてり。”してマリアをとがめました。

イエスキリストがおっしゃるのを “そっとしておきなさいあなたがたがどんな理由でこの女をつらくするのか？この女が私に良いことをした。貧しい者等はいつもあなたがたと一緒にいるからあなたがたが円滑の時に助けることができる。しかし私はあなたがたといつも一緒にいないだろう。この女が自分ができる仕事をしたから、この女は葬礼のためにあらかじめ私の体に油を注いだ。私が真実であなたがたに言ったら、全天下にどこでも福音が伝える所にはこの女が行ったことも言ってこの女を憶えるようになるでしょう。” しました。 私たちを救援してくださったイエスキリストを愛する心を持つようになれば神様の前で欲得は消えてしまいます。神様を愛する心から湧き出て感謝の礼物を差し上げながら奉事する人はその事によって試験に入る事がありえないです。もし試験に入ったら神様を愛するという彼の言葉と歌は口にたけおっしゃるに過ぎないのです。イエスキリストに向けた愛の心から始まる感謝の献身を神様がどれだけ嬉しく思うかをこんなにおっしゃいました。“よく聞きなさい。全世界のどこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう”。（マルコによる福音書 14:9）。私たちが神様を愛することは神様の愛を授けた結果です。神様の愛は極めて高くて広くて深いです。空を見て高くて宇宙より広くて海より深いです。誰も神様の愛を悟るくらい神様を愛するようになります。そして神様を向けた愛は感謝に表現するようになります。口だけ感謝ではなくすべての良いことを差し上げることを通じて感謝を表現するようになります。神様を愛する心は神様の愛を悟るふかみに比例します。使徒パウロは記録するのを “すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。”（エペソ人への手紙 3:18, 19）しました。聖徒 皆さんは日増しに神様の愛に対する悟りがもっとふんだんになるのを求めてください。そして神様を向けた愛がもっと深くなって神様を向けた感謝があふれるように願います。

三番目は、神様を向けた謙遜な心が感謝の根源です。

謙遜な人は自信にあるすべてのものが神様頃から受けたことだという事実を深く認識しています。コリント人への第一の手紙 4 章 7 節に記録されるのを いったい、あなたを偉くしているのは、だれなのか。あなたの持っているもので、もらっていないものがあるか。もしもらっているなら、なぜもらっていないもののように誇るのか。コリント人への第二の手紙 3 章 5 節には “もちろん、自分自身で事を定める力が自分にある、と言うのではない。わたしたちのこうした力は、神からきています。” 言いました。すべてのものがすべて神様頃から来ました。神様の前で私だと主張することは何もないです。すべてのものが神様の贈り物で恵みです。だから謙遜な心を持てば感謝があふれるようになります。神様を信頼する心、神様を愛する心、謙遜な心は感謝の水かさが湧き出るようにする根源です。

聖徒の皆さんは神様を信頼する心、神様を愛する心、謙遜な心から湧き出る感謝があふれるように願います。